

学びの広場

学力向上通信 職員室版
 夢田 涼太郎
 令和5年 4月20日
 2号。実演授業 報告

1. 研修の目的

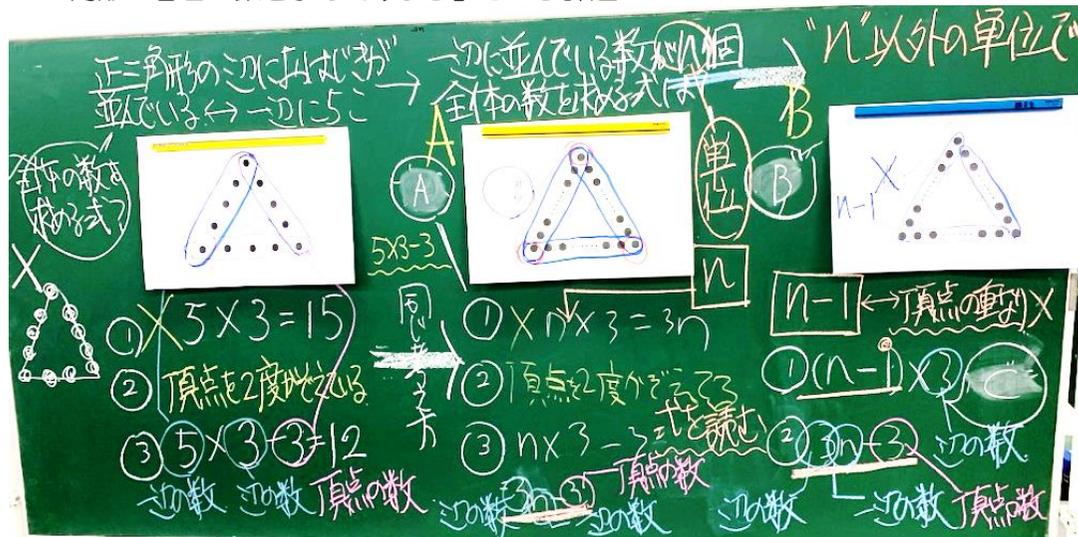
- ① 実演授業の参観と講演を通して、校種や教科を越えた、学習指導要領の趣旨実現に向けた授業づくりを学ぶ。
- ② 自身の教育活動を振り返り、これからの教育実践に生かす。

2. 研修の内容

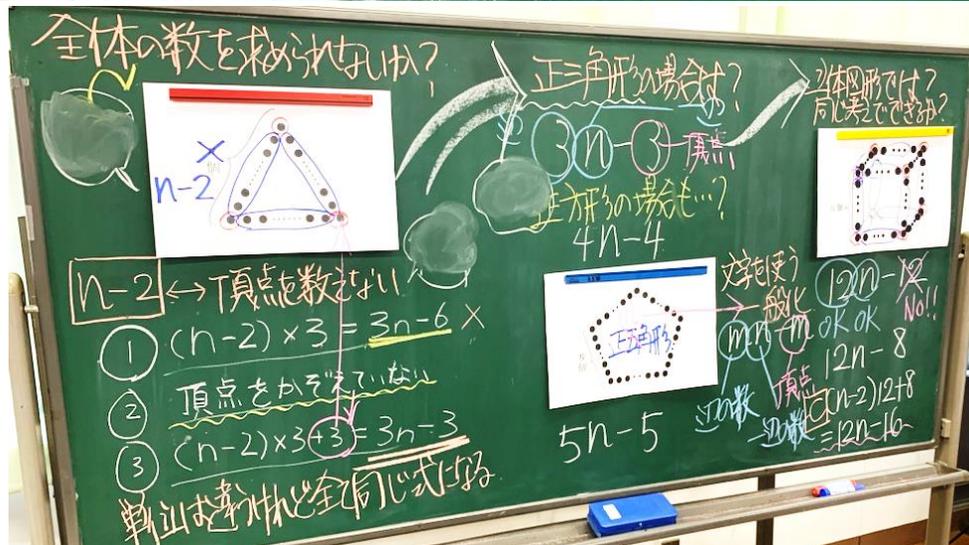
齊藤一弥教授による実演授業

吹田二中 2年4組 「文字式」(1年の復習)

- ・生徒は60名程度の大人に囲まれながら、知らない教授の授業を受ける状況でも、生徒たちは緊張をあまり感じていない様子。
- ・「三角形の基石の数を求めてみよう」という課題



← 授業板書 →



3. 研究協議

- ・5人程度のグループが12グループ。
- ・Why、What、Howの視点を共有

スペースの都合上、キーワードのみの要約です。少しでも参考にできれば幸いです…。

夢田のグループでの協議内容

Why⇒いかなる資質・能力の育成を目指そうとしていたのか？

文字を使った式で数量の関係や法則を表したり、意味を読み取ったりする。その良さを感じ、式を積極的に活用する。

What⇒学習対象・思考の対象は何か？(子供にとって、何を学ぶのかはつきりしていたか？)

- ・正三角形の基石の数→正方形の基石の数、→正n角形の基石の数→立方体の基石の数を求めるための式
- ・同じ図形であっても、囲み方次第で作る式が変わるが、式を整理するとすべて同じ式になる。
- ・正方形、正五角形、正六角形…と頂点の数を増やしても、正三角形の式と同じ考え方で式を作ることができる。
- ・立方体になった時には、正方形のときの考え方と全く同じで考え方では式に誤りがある。なぜ誤りがあるのかを考える。

How⇒教科らしい学習のプロセスにどのように関わっていたのか？

- ・式や数を言語化すること⇒思考の見える化
- ・生徒(Aさん)が作った式を、他の生徒(Bさん)が説明する⇒式でのコミュニケーション
- ・nのとき、n-1のとき、n-2のときを比較⇒共通する部分、異なる部分に気づく
- ・正方形、正五角形、正六角形…と頂点の数を増やす⇒法則の良さ、式の良さに気づく
- ・平面から立体へ発展させる⇒平面の時との法則の違い、式の作り方の違いを考える。

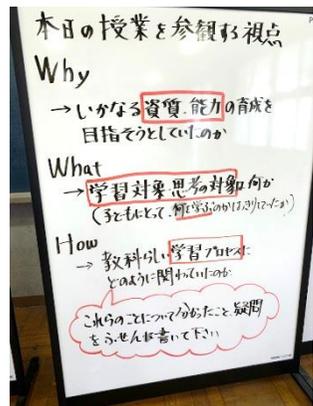
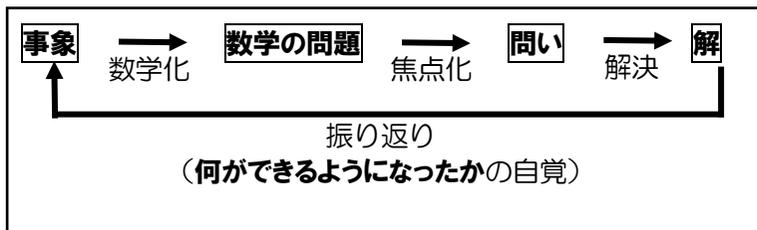
4. 講演(齊藤一弥教授)

1 能力ベースの学びを描く(ベース=始発点)
 昔は内容ベース。教師が内容を教え込む。
 能力ベースは生徒が何ができるようにしたいのか

2 内容知と方法知から問い直す
 今回で言うと
 内容知は文字式を用いる良さ。
 方法知は統一的に考察し、粘り強く振り返り追求し続ける姿勢

勉強方法を身に着ける

3 教科らしい文脈を描く
 数学の場合は…



5. 受講者の感想(夢田)

「能力ベースの授業づくり」と聞いて、新しい取り組みを始めなければいけないのかな？と思っていました。そうではなくて、今まで五中の先生方が実践してきた授業に新たな目的・視点を与えてくれて、今まで気づかなかった価値に気づける可能性を感じました。